

【原 著】

教職志望学生の指導のあり方（8）  
—教職相談室の利用の実態から—

河内 智美 武藤 幹夫 小林 清太郎

Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers(8)  
Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Satomi KOCHI, Mikio BUTO, Seitaro KOBAYASHI

2016

岡山大学教師教育開発センター紀要 第6号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education  
and Development, Okayama University, Vol.6, March 2016

原 著

## 教職志望学生の指導のあり方(8)

—教職相談室の利用の実態から—

河内 智美<sup>\*1</sup> 武藤 幹夫<sup>\*1</sup> 小林 清太郎<sup>\*1</sup>

教職相談室では、主に教職志望の学生を対象に教員採用試験に向けた指導を中心とした様々な相談活動を行っている。そして、相談活動全般を通して、教師としての自覚や情熱を高めたり教育観を形成したりすることに力を注いでいる。今年度は、相談室の利用希望者が多い5月から8月までの間、三人体制の日を週に2回設けることで相談の枠を増やし、指導体制の充実を図ることができた。その結果、4月から11月までの利用者数が、過去最高だった昨年度を上回るとともに、これまで予約がとれず「見学」として対応せざるをえなかった相談の質が大幅に改善された。

学生の利用状況を見ると、これまでと同様に、教員採用試験に最終合格した学生とそれ以外の学生とでは、教職相談室の利用回数・利用開始月に大きな差が見られた。

キーワード：教職相談室、指導体制の充実、利用回数・利用開始月

※1 岡山大学教師教育開発センター

## I 本年度の取組

## 1 取組の内容

教職相談室の役割は、単に教員採用試験に合格するための指導を行うことではなく、教師としての志や熱い思い、教育に対する見方・考え方を育て、採用後も学び続け成長していく教師としての資質の基盤を養うことである。したがって、次の①～⑤の取組を通して教師への夢をふくらませたり、自分はどんな教師になれそうかと自分のよさを見つめたり、具体的な指導のあり方やその意義を考えたりすることができるよう、学生一人一人の特性に合わせた対話を重視した指導を行っている。

- ① 教員採用試験に向けての勉強方法についての相談対応
- ② 教職という仕事全般についての相談対応
- ③ 教師力養成講座の開催とDVD視聴対応
- ④ 学校支援ボランティアについての相談対応
- ⑤ 教員採用試験に向けての個別的・具体的な指導
  - ア 小論文
  - イ 個人面接
  - ウ 集団討論
  - エ 模擬授業
  - オ ロールプレイングや場面指導

教員採用試験の合格をゴールと考えるのではなく、

その先を見据えて夢や目標をもち、自分を磨いていくことが大切である。そこで、教職相談室では、過去の「教師力養成講座」のDVDを視聴し各分野で実績をもっておられる講師の先生の講話を聴いたり、一次試験にはない「小論文」を書いたりすることから取組を始めている。教員採用試験に向けた指導を求めて訪れる学生に対しては、最初に、教師としての情熱をもち、思いや考えを確かなものにしていく重要性について説明する。説明の中で、DVDの視聴や小論文の作成は確かな教育観を養うために大変重要なことであるという取組の意義について十分な理解を図り、学びをスタートさせている。また、指導全般を通して、学生一人一人が自分を見つめ直し、自分の特性やよさをしっかり把握して、自信をもって教員採用試験に立ち向かっていけるような支援を大切にしている。

## 2 指導体制の充実

平成25年7月から教員が1名増員され、月曜日と金曜日の午後2時から午後5時までの週6時間の勤務となった。また、平成26年度は、その勤務時間が延長され、午前10時から午後5時までの週10時間に増えた。それでも特に5月から8月の予約はすぐにいっぱいとなり、希望に応じにくい状況は続いた。

そこで、本年度は、週2日勤務の教員の勤務時期を利用者が多い5～8月期にシフトし、利用枠を増やした。また、新たに教師教育開発センター他部門の教員の兼務体制も敷かれ、年間を通じた二人体制を維持するとともに、5～8月期には週2日の三人体制を確立することができた。その結果、これまで予約がとれず「見学」として対応せざるをえなかった学生への指導の質の改善を図ることができた。

## Ⅱ 教職相談室の利用者数の状況

表1・図1は、平成17年4月から平成27年11月までの利用者数の推移である。平成17年度から平成22年度までは、年間利用延べ人数が増加し続けてきた。しかし、平成23年度は平成22年度と比較して減少している。これは、毎年4月に教職相談室が指導している教採自主講座の「小論文の書き方」と「面接や模擬授業の受け方」の開講日が、平成23年度は他の講義や教採説明会と重なり、受講生が少なくなったためと考えられる。平成24年度以降は重複することがないように設定して開催することができたため、増加傾向が続いている。特に、平成26年7月は、月別の集計においてはこれまでで最多の1,000人を超える利用者となった。本年度前期において、指導体制が充実したにもかかわらず利用者数が伸びなかったのは、小論文の指導において利用者のカウントの方法を一部変更したことによる。また、これまでは予約の希望に添えず「見学」として対応した学生の数も利用者数に多く含まれていた。本年度は利用枠の増大により、そうした「見学」対応が大きく減少したため、利用者数は伸びなかったものの、数には表れていない指導の質の向上を図ることができた。

表2は、前年12月から翌年11月までの年間利用延べ人数の集計表である。教員採用試験に向けて多くの学生が来室し始めるのが12月であり、多くの自治体の合格発表が終わり学生が来なくなるのが翌年11月である。そのため、前年の12月から翌年の11月までの集計表では、同じ学生が利用し始めてから利用し終わるまでの期間を通しての年間利用延べ人数を比較することができる。平成26年12月から平成27年11月までの年間利用延べ人数は5,529人であり、前年の同時期の利用者数と比較すると、172人増加した。

表3は、平成26年12月から平成27年11月までの利用者延べ人数（学生所属別）である。教職相談室の利用者の多くは教育学部生であるが、前々年の実績

と比較して477人増加したものの前年実績より179人減少した。これは前述のカウントの方法の変更によるものと思われる。また、年間利用延べ人数5,529人の内、課程認定学部生は388人で、前年に比べて95人、割合にして1.5%増加した。今後も課程認定学部生の利用を増やすための工夫が必要である。さらに、教育学研究科の学生が154人、割合にして2.6%、養護教諭特別別科の学生が79人、割合にして1.2%増加した。

表4は、平成26年12月から平成27年11月までの教職相談室利用内訳である。「A. 小論文」は前述のとおりカウントの方法を変更したことにより、前年実績に比べて減少した。また、「C. 個人集団面接」は前年実績より691人増加した。ところが、「D. 集団討論」は前年と比較して237人減少した。この期の学生は予約がとりやすくなったこともあり、一人で来室したり少人数で来室したりするケースが多く、そのことが「C. 個人・集団面接」の増加、「D. 集団討論」の減少といった数値に表れたのではないかと思われる。

次に、主な項目の月別利用者数を詳しく見ると、「A. 小論文」は1月から5月に、「B. DVDの視聴」は、1月から4月に集中している。これは、1月の「教職ガイダンス」で、早い時期に小論文を書く練習をしたりDVDを視聴したりすることの意義について説明したことが大きくかかわっていると思われる。一方、「C. 個人・集団面接」は少し遅れて4月から8月に、次いで「D. 集団討論」は5月から8月に多く取り組まれている。また、「E. 模擬授業」は、7月と8月に集中している。これは、一次試験・二次試験の内容に合わせたニーズによるものと思われる。また、例年最も利用者が多い5月から8月は週2日の教員三人体制を確立したため、個人面接などのニーズにかなり応えることができたことも反映されていると考える。

表1 「教職相談室利用者数の推移」

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17年度	104	184	168	195	267	29	81	46	33	17	31	23	1178 (146)
18年度	134	213	193	205	174	24	87	37	25	37	42	49	1220 (184)
19年度	196	230	222	222	278	21	61	30	23	31	27	36	1377 (182)
20年度	209	539	387	539	430	37	148	88	104	90	86	113	2770 (408)
21年度	305	479	496	623	421	66	176	106	99	154	152	126	3203 (448)
22年度	731	710	556	711	501	87	261	155	230	293	217	141	4593 (477)
23年度	359	596	458	505	526	99	200	106	165	266	257	164	3701 (470)
24年度	772	650	495	654	414	59	195	98	148	127	140	144	3896 (506)
25年度	654	743	461	802	772	89	194	88	240	345	180	201	4769 (527)
26年度	739	782	622	1019	862	70	215	82	187	250	358	331	5517 (520)
27年度	834 (282)	696 (220)	700 (196)	889 (222)	852 (195)	159 (35)	148 (92)	125 (38)					4403 (385)

\*注：かっこ内は実人数である。

図1 「教職相談室利用者の年度別比較」

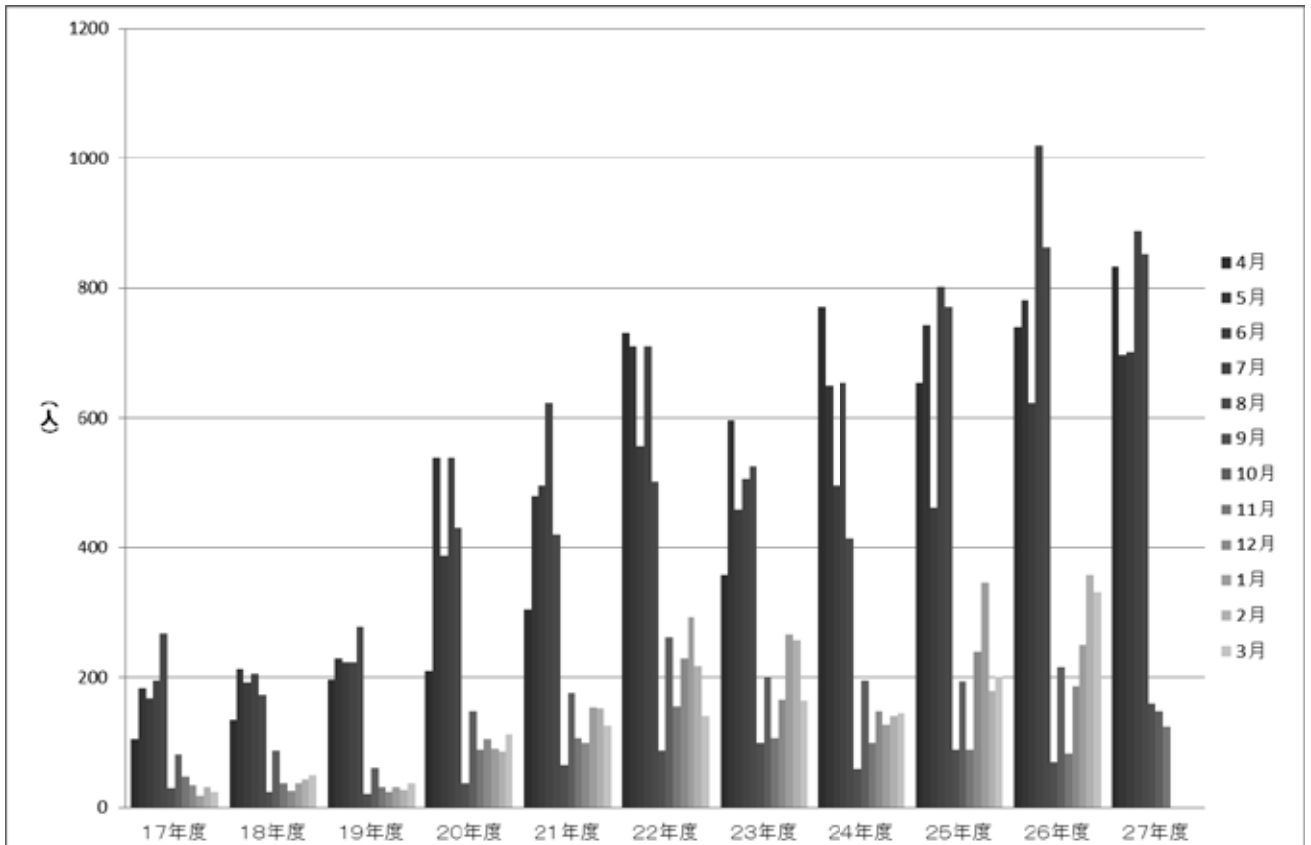


表2 「前年12月から翌年11月までの利用者数の推移」

単位:人

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
H17.12 ~ H18.11	33	17	31	23	134	213	193	205	174	24	87	37	1171 (177)
H18.12 ~ H19.11	25	37	42	49	196	230	222	222	278	21	61	30	1413 (170)
H19.12 ~ H20.11	23	31	27	36	209	539	387	539	430	37	148	88	2494 (358)
H20.12 ~ H21.11	104	90	86	113	305	479	496	623	421	66	176	106	3065 (459)
H21.12 ~ H22.11	99	154	152	126	731	710	556	711	501	87	261	155	4243 (455)
H22.12 ~ H23.11	230	293	217	141	359	596	458	505	526	99	200	106	3730 (443)
H23.12 ~ H24.11	165	266	257	164	772	650	495	654	414	59	195	98	4189 (554)
H24.12 ~ H25.11	148	127	140	144	654	743	461	802	772	89	194	88	4362 (464)
H25.12 ~ H26.11	240	345	180	201	739	782	622	1019	862	70	215	82	5357 (514)
H26.12 ~ H27.11	187	250	358	331	834	696	700	889	852	159	148	125	5529 (540)

\*注: かつこ内は実人数である。

表3 「平成26年12月から平成27年11月までの利用者数(学生所属別)」

	教育学部	教育学部 研究科	別科	特 専	課程認定学部										計	課程認定大学院					卒業生・その他			計 (教育学部・教育学部 研究科以外)	合 計
					文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッピング プログラム コース	自然科学 研究科	社会文化 科学博士 前期		環境生命 科学	計	教育学部	教育学部 研究科	その他					
12月	124 (205)	3 (6)	11 (0)	2 (0)	25 (9)	0 (0)	0 (0)	14 (8)	0 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	40 (22)	6 (4)	0 (0)	1 (2)	7 (6)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	60 (29)	187 (240)	
1月	194 (309)	3 (1)	6 (1)	0 (0)	31 (13)	0 (0)	0 (0)	6 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	1 (0)	39 (19)	7 (9)	0 (0)	1 (6)	8 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	53 (35)	250 (345)	
2月	294 (155)	3 (7)	7 (0)	0 (0)	29 (2)	0 (0)	4 (0)	6 (5)	1 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	41 (11)	8 (4)	0 (0)	4 (3)	12 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	61 (18)	358 (180)	
3月	229 (159)	1 (14)	28 (1)	5 (0)	29 (8)	3 (0)	5 (0)	14 (3)	0 (6)	0 (2)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	53 (20)	8 (5)	0 (0)	5 (5)	13 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (0)	101 (28)	331 (201)	
4月	600 (618)	45 (30)	89 (45)	0 (3)	53 (9)	7 (0)	1 (7)	6 (8)	1 (3)	0 (6)	0 (0)	3 (0)	0 (3)	71 (33)	15 (2)	0 (0)	0 (2)	15 (4)	2 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (6)	14 (9)	189 (739)	
5月	476 (599)	56 (49)	100 (87)	0 (5)	31 (14)	2 (0)	0 (0)	3 (11)	0 (4)	0 (0)	0 (5)	0 (0)	0 (0)	36 (34)	17 (3)	1 (0)	1 (4)	19 (7)	2 (1)	3 (0)	4 (0)	9 (1)	164 (134)	696 (782)	
6月	522 (535)	86 (15)	55 (49)	1 (1)	9 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (2)	0 (7)	0 (8)	14 (7)	7 (0)	1 (4)	1 (12)	8 (3)	0 (0)	2 (0)	12 (3)	14 (0)	92 (72)	700 (622)	
7月	645 (806)	83 (44)	93 (110)	0 (8)	24 (9)	0 (0)	0 (0)	18 (9)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	42 (21)	3 (11)	1 (6)	0 (11)	4 (28)	0 (2)	2 (0)	20 (9)	22 (2)	161 (169)	889 (1019)		
8月	686 (689)	72 (58)	40 (55)	0 (5)	23 (19)	0 (0)	0 (0)	5 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (5)	0 (2)	28 (34)	2 (5)	0 (0)	0 (7)	2 (12)	10 (7)	3 (2)	11 (0)	24 (9)	94 (115)	852 (862)		
9月	118 (34)	30 (7)	5 (8)	0 (2)	4 (7)	0 (0)	0 (2)	0 (4)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (2)	2 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (29)	159 (70)	
10月	116 (143)	14 (11)	6 (4)	0 (11)	6 (22)	0 (2)	0 (17)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (42)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (2)	1 (1)	0 (0)	2 (1)	3 (0)	18 (61)	148 (215)		
11月	109 (40)	2 (2)	2 (3)	0 (2)	9 (24)	0 (0)	0 (0)	3 (9)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (35)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (40)	125 (82)	
合計	4113 (4292)	398 (244)	442 (363)	8 (37)	273 (139)	12 (2)	11 (84)	80 (29)	3 (5)	1 (25)	8 (0)	0 (7)	388 (293)	76 (54)	3 (6)	12 (42)	91 (102)	15 (22)	10 (3)	64 (1)	89 (26)	1018 (821)	5529 (5357)		

\*注: かつこ内は前年実績である。

表4 「平成26年12月から平成27年11月までの教職相談室利用内訳」

単位:人

項目	月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
		1. 教師としての自覚や使命感に関すること	A. 小論文	52 (70)	102 (178)	178 (122)	184 (113)	220 (330)	139 (296)	41 (58)	44 (53)	95 (100)	15 (10)	4 (11)
	B. DVD視聴	13 (14)	31 (55)	77 (37)	83 (55)	50 (71)	0 (25)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (10)	0 (17)	10 (11)	269 (295)
2. 教員採用試験に関すること	C. 個人・集団面接	16 (3)	14 (1)	7 (0)	24 (0)	435 (173)	226 (294)	407 (385)	416 (210)	240 (210)	67 (8)	22 (24)	63 (28)	1937 (1246)
	D. 集団討論	38 (78)	56 (86)	64 (0)	24 (0)	41 (111)	201 (248)	229 (253)	295 (420)	149 (163)	35 (11)	37 (40)	7 (3)	1176 (1413)
	E. 模擬授業	3 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	112 (131)	327 (361)	22 (3)	0 (3)	9 (2)	476 (501)
	F. 情報・資料提供等	42 (57)	27 (17)	21 (15)	9 (15)	42 (47)	60 (71)	9 (15)	18 (29)	22 (26)	3 (13)	5 (22)	8 (7)	266 (334)
小 計		164 (222)	230 (338)	347 (174)	324 (183)	788 (732)	626 (760)	694 (620)	885 (1018)	833 (860)	142 (55)	68 (117)	108 (69)	5209 (5148)
3. 講師採用に関すること		2 (4)	3 (2)	0 (2)	2 (4)	0 (2)	4 (11)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	4 (7)	1 (2)	0 (0)	22 (40)
4. 進路に関すること		21 (13)	15 (4)	10 (3)	4 (7)	45 (5)	65 (11)	5 (1)	4 (0)	13 (2)	13 (10)	78 (91)	17 (11)	290 (158)
5. 学校教育に関すること		0 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (7)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	8 (11)
合 計		187 (240)	250 (345)	358 (180)	331 (201)	834 (739)	696 (782)	700 (622)	889 (1019)	852 (862)	159 (70)	148 (215)	125 (82)	5529 (5357)

\*注: かつこ内は前年実績である。

### Ⅲ 教職相談室の利用回数・利用開始月と教員採用試験の可否結果

「教職相談室を利用した回数」及び「教職相談室を利用し始めた月」と「教員採用試験における可否の結果」について比較する。

#### 1 分析の対象

##### (1) 分析対象期間

平成26年4月1日から平成27年11月30日までの20か月間を分析の対象とした。その理由は、学生が教職相談室を利用し始めるきっかけの多くが12月初旬に開催される「教職ガイダンス」であるが、3年生になってすぐの4月に来室したり、実習前の9月・10月に来室したりする学生が徐々に増えてきているからである。また、その期間の利用回数も総利用回数としてカウントした方が統計上正確な数字となるからである。

##### (2) 分析対象者

上記分析対象期間に教職相談室を利用した学生の中から、1年生、2年生、3年生などの教員採用試験を受けていない者、試験結果の可否が不明である者を除いた245人と、教職相談室を利用せずに教員採用試験を受けた31人を加えた276人を調査対象者とした。

##### (3) 分類

276人の内、教員採用試験に最終的に合格した156人を「2次合格」群、1次試験に合格したが2次以降の試験には合格しなかった52人を「1次合格」群、1次試験に合格しなかった68人を「不合格」群と分類した。なお、複数の地域で受験した学生については、最も結果の良かったものをその学生の最終結果として採用した。

### 2 教職相談室の利用回数と教員採用試験の可否結果

表5は、教職相談室の利用回数ごとの教員採用試験可否結果を示したものである。一番多い利用は96回に上っている。一人あたりの教職相談室の平均利用回数は、2次合格群は22.3回、1次合格群は14.7回、不合格群は6.5回、全体の平均は17.0回であった。各群の利用回数を比較すると、2次合格群は1次合格群の約1.5倍、不合格群の約3.4倍であり、1次合格群と不合格群の比較においても、1次合格群

表5 「教職相談室の利用回数と教員採用試験の可否結果その1」

利用回数(回)	2次合格	1次合格	不合格	合計
0	3	7	21	31
1	4	1	7	12
2	4	4	2	10
3	4	3	4	11
4	4	3	3	10
5	1	1	2	4
6	1	1	4	6
7	4	3	6	13
8	3		3	6
9	2	1		3
10	4	2	2	8
11	4		1	5
12	5	2	2	9
13	4	2	1	7
14	8	1	2	11
15	4	2	1	7
16	5	2		7
17	2	1		3
18	8	1		9
19	2			2
20	3	1		4
21	6	2		8
22	2		1	3
23	6			6
24	5		1	6
25	4		1	5
26	4			4
27	2		1	3
28	2		1	3
29	5	1		6
30	1	1		2
31	3	1		4
32	3	1		4
33	6		1	7
34	1	1		2
35	4	1		5
36	1	3		4
37	1			1
38	2			2
39				
40	1		1	2
41				
42	5			5
43				
44				
45	1			1
46	1			1
47	1			1
48				
49		1		1
50	1	1		2
51	2	1		3
52				
53	1			1
54				
55				
56				
57	1			1
58	1			1
59				
60	1			1
61				
62				
63				
64	1			1
76	1			1
96	1			1
合計人数	156	52	68	276
平均回数(回)	22.3	14.7	6.5	17.0

は不合格群の約2.3倍と大きな差が見て取れる。

「利用回数」と「可否」との関連の傾向をつかみやすくするために、利用回数5回ごとに人数とその割合をまとめたのが表6である。表6から分かることは、2次合格群では11回～15回、16～20回、21～25回の利用者が多く、2次合格者全体の半数近くを占めているということである。それに比べて1次合格群では1～5回の利用者が最も多く、1次合格者全体の23.1%であり、1次合格群は0～10回の利用が約半数を占める。不合格群を見ると、全く利用し

ていない者が全体の30.9%と最も多く、次いで1～5回の利用者が26.5%となっている。

また、2次合格に至らなかった学生と2次合格群の学生とを比べると、10回以内の利用と21回以上の利用で大きな差があることが分かる。利用回数21回以上の学生の2次合格者が78.6%であるのに対して、

利用回数10回以下の学生の2次合格者は29.8%になっている。このことから、2次合格に至るには「教職相談室を20回以上利用することが望ましい」という効果的な利用回数の目安が見えてくる。できるだけ多くの学生の教職相談室の利用回数を20回以上に上げるようにしたい。

表6 「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否結果その2」

合否	平均利用回数(回)	教職相談室利用回数ごとの人数															計	
		0回	1～5回	6～10回	11～15回	16～20回	21～25回	26～30回	31～35回	36～40回	41～45回	46～50回	51～55回	56～60回	61～65回	66～回		
2次合格	22.3	人	3	17	14	25	20	23	14	17	5	6	3	3	3	1	2	156
		%	1.9	10.9	9.0	16.0	12.8	14.8	9.0	10.9	3.2	3.9	1.9	1.9	1.9	0.6	1.3	100
1次合格	14.7	人	7	12	7	7	5	2	2	4	3		2	1				52
		%	13.5	23.1	13.5	13.5	9.6	3.8	3.8	7.7	5.8		3.8	1.9				100
不合格	6.5	人	21	18	15	7		3	2	1	1							68
		%	30.9	26.5	22.0	10.3		4.4	2.9	1.5	1.5							100
全体	17.0	人	31	47	36	39	25	28	18	22	9	6	5	4	3	1	2	276
		%	11.2	17.0	13.0	14.1	9.1	10.2	6.5	8.0	3.3	2.2	1.8	1.4	1.1	0.4	0.7	100

### 3 教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否

教職相談室を利用した学生の内、教員採用試験の合否が確認できた245人の利用開始月と合否の結果を示したものが表7である。平成26年4月から11月の間に教職相談室を利用し始めた38人の内30人(78.9%)が2次合格を果たしており、3人(7.9%)が1次合格、5人(13.2%)が不合格となっている。また、2次合格に至らなかった学生と2次合格群の学生とを比べると、3月と4月の境で差が見えてくる。3月までに利用した学生の69.3%が2次合格を果たしており、4月から利用した学生の51.9%が2

次合格に至らなかった。このことから、2次合格に至るには「3月までに教職相談室の利用を始めることが望ましい」という効果的な利用開始時期の目安も見えてくる。これは、3月までに来室すればじっくり小論文に取り組みせたり、教師力養成講座のDVDを視聴させたりしながら、教育観を養うことができることによるものと思われる。

以上のようなことから、3年生を対象とした「教職ガイダンス」等を利用して、できるだけ早く教職相談室を利用するよう呼びかけていきたい。

表7 「教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否結果」

利用開始月	2次合格		1次合格		不合格		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
平成26年 4月～11月	30	78.9	3	7.9	5	13.2	38	100
12月	31	67.4	9	19.6	6	13.0	46	100
平成27年1月	27	64.3	11	26.2	4	9.5	42	100
2月	17	63.0	7	25.9	3	11.1	27	100
3月	10	76.9			3	23.1	13	100
4月	34	47.2	15	20.8	23	32.0	72	100
5月	1	50.0			1	50.0	2	100
6月	1	50.0			1	50.0	2	100
7月					1	100.0	1	100
8月	2	100.0					2	100
9月								
合計	153	62.4	45	18.4	47	19.2	245	100

#### IV まとめと今後の取組

「Ⅲ 教職相談室の利用回数・利用開始月と教員採用試験の可否」で述べたとおり、教職相談室の利用が学生の採用試験合格への力になっている。「多く利用すること」「早くから利用すること」の重要性を学生にしっかりアナウンスすることが大切であり、アナウンスの内容・方法を今後も改善し、充実させていかなければならない。

アナウンスの絶好の機会が「教職ガイダンス」である。現在、教育学部の就職・学生委員会と連携して教職ガイダンスを開催することができるようになってきている。ガイダンスの開催に向けて就職・学生委員会正副委員長・事務職員・教職相談室教員が月1回「教職懇談会」を設け、細かい連絡・相談・調整を行っている。その懇談の場で教職ガイダンスの充実を目指して、学生と教職相談室をつなぐ取組も綿密に協議している。本年度は、3年生・院生対象のガイダンスを3回に増やし、ワークを取り入れるなど内容の改善も図られたが、参加者数が少なく、多くの学生に教職相談室の利用を呼びかけることができなかった。今後も就職・学生委員会との連携を大切に、協働で教職ガイダンスの充実に努めていきたい。そのことが、教職相談室の充実・発展につながるものと考えている。

また、表7を見ると、教職相談室を利用して2次合格を果たした者は153人で、利用者全体の62.4%に上っていることが分かる。これを昨年度の同様の調査結果と比較すると、5.7%の上昇、一昨年度より8%の上昇となっている。ただし、この調査は合否が分かった者のみ対象としているので、正確な数値とは若干異なる。合格率が上昇傾向となった大き

な要因としては、「I 本年度の取組 2 指導体制の充実」で述べたとおり、年間を通じた二人体制、5～8月期は週2日の三人体制を確立することができたことが考えられる。このことにより、学生の相談ニーズに応じやすくなり、学生一人一人に手厚く指導できやすくなった。今後も指導体制の充実は大きな課題であり、様々な工夫を凝らしながら改善を図っていきたい。

ともあれ、一番重要な課題は教職相談室の指導内容の向上である。「I 本年度の取組 1 取組の内容」でも述べたが、学生一人一人が教師としての情熱をもち、教育観を確立していくことができるような指導が何より求められる。今後も学生が自ら考えを深め、大切なものをつかみとっていくことができるような指導に徹していきたい。特に「小論文」の添削を通して教師としての自覚や心構え、意欲や情熱を高め、教育内容や方法を具体的に描くことができるようにしていきたい。また、教師力養成講座のDVDを視聴することも有意義であり、教師力養成講座の内容の充実を図ることが重要である。こうした取組を充実させようと考え、学生の教職相談室利用開始時期がポイントとなる。一次試験が目前に迫り、その対応をせざるをえない時期からのスタートでは、教育の根幹となる部分の育成は難しい。そういった面からも、できるだけ早い時期からの利用を促すことが指導内容の向上につながってくる。

冒頭でも述べたが、教員採用試験の合格はゴールではなく、スタートである。学生が教師として力強くスタートを切り、自ら伸びていく資質を養う支援が行えるよう今後とも努めていきたい。

---

Title : Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (8)

Subtitle : Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Satomi KOCHI<sup>\*1</sup>, Mikio BUTO<sup>\*1</sup>, Seitaro KOBAYASHI<sup>\*1</sup>

Keyword : Teaching Profession Consultation Office, improve the guidance system, visit frequency · visit start month

※1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University

---